

調査速報

タイ自動車市場月次統計（2017年12月）

輸出低迷が続く 18年は国内市場でのシェア争いが激化し、タイビジネスの収益性が悪化する可能性に要注意。

主任研究員
深尾 三四郎
045-225-2375
fukao@yokohama-ri.co.jp

要約

- 12月生産台数（季調値）は前月比3.6%減の204万台。内外需の増加に加えて、輸入も増加した可能性。
- 17通年では輸出減少を国内販売の回復が吸収し、国内生産は3年連続の増産で200万台回復一步手前。
- 18年の生産は内需堅調で200万台を回復するが、国内シェア争いが激化する可能性に要警戒。

緩やかながらも久方ぶりの内需回復で、メーカーが収益性を犠牲にしたシェア拡大に急ぐリスクが高まる

タイ工業連盟 (Federation of Thai Industries: 以下、FTI) が発表した 2017 年 12 月の四輪車総生産台数は、前年同月比 15.8%増と 6 か月連続で前年超えしたが、季節調整済年率換算値 (当社試算、以下 SAAR) は前月比 3.6%減の 203.5 万台と減少した (図表 1)。輸出と国内販売の SAAR はともに前月比で増加したにも関わらず (後述)、減産となった。タイから周辺国へ生産移管されたモデルやその他の国から輸入された車両がタイ国内にて販売を伸ばしたことが、タイの国内生産台数の減少に繋がった一因と考えられる。

12月の総輸出台数は前年同月比11.3%増と2か月連続で前年超えし、SAARも前月比8.2%増の124.5万台と伸長した (図表 2)。主要仕向け地別の輸出台数の四半期推移 (前年同期比) をみると、17年第4四半期 (10~12月) はアジア向けの前年割れが続く、中東向け輸出が6四半期ぶりに水面上に浮上した。足元の輸出伸長は中東に加え、豪州・オセアニア、アフリカや欧州向けの輸出増が背景にある (図表 3)。

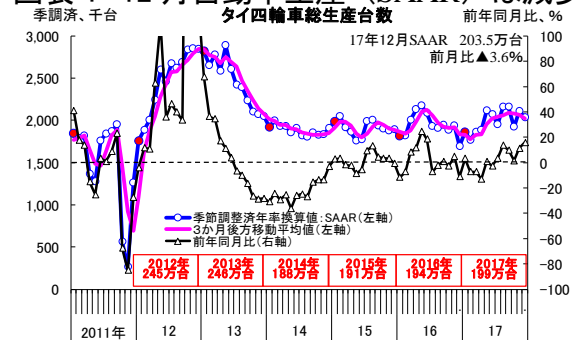
12月の国内販売台数は前年同月比20.1%増と12か月連続の前年超えとなり、SAARも前月比15.7%増の99.4万台と年率100万台レベルへと大きく増加した (図表 4)。相次ぐ新モデルの市場投入と販促強化が続いている上に、消費者信頼感指数が上昇基調にあることも背景にある (図表 5)。なお、12月はタイ最大規模のモーターショーが開催され (11月30日~12月11日)、当会場での受注台数が前年比23%増の4万台と好調だったことが背景にあり、販売台数はやや出来過ぎで、1月のSAARは減少すると予想する。

17暦年のタイ自動車市場は、国内生産が前年比2.3%増の199万台、輸出台数が同4.1%減の114万台、国内販売が同13.4%増の87万台という結果となった。弊社18年予測である国内生産202万台 (前年比1.6%)、輸出113万台 (同0.9%減)、国内販売89万台 (同2.1%) は据え置く。

輸出環境は18年も低迷しよう。タイ生産車を年間4~5万台輸入するベトナムは、ASEAN合意に基づき、本年1月1日に輸入車関税を30%からゼロにしたが、港湾における輸入車両への検査手続きを煩雑化させる「非関税障壁」を築いた。漸く輸出台数が前年超えした中東では、サウジアラビアとアラブ首長国連邦が1月1日に付加価値税 (VAT) を導入し、今後、他の湾岸協力会議 (GCC) 諸国も18年中にVATを導入する予定である。これらはタイ製自動車輸出への逆風となる。

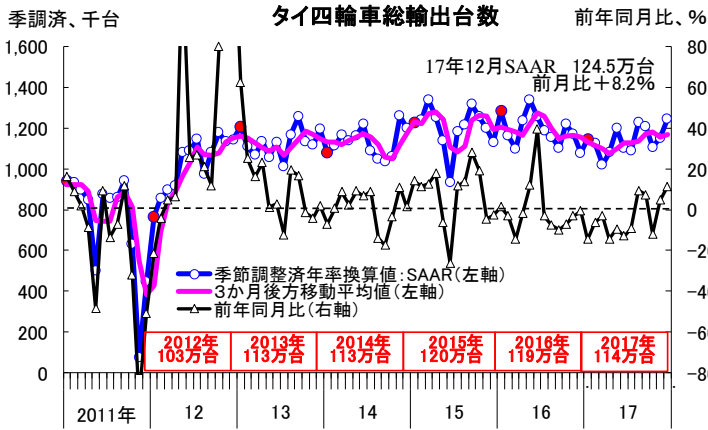
国内販売は景況感の改善を背景に堅調であろう。もっとも、輸出が低調な中、長らく低迷が続いた後の国内市場の回復期入りとあって、メーカーは工場稼働率向上のため、ここぞとばかりに販促強化で収益性を犠牲にしながらシェア拡大を急ぎ過ぎてしまうリスクが高まる。すでに一部メーカーが大幅な増販計画を打ち出しており、タイ市場での事業収益性が悪化する可能性があり要警戒である。

図表1 12月自動車生産 (SAAR) は減少



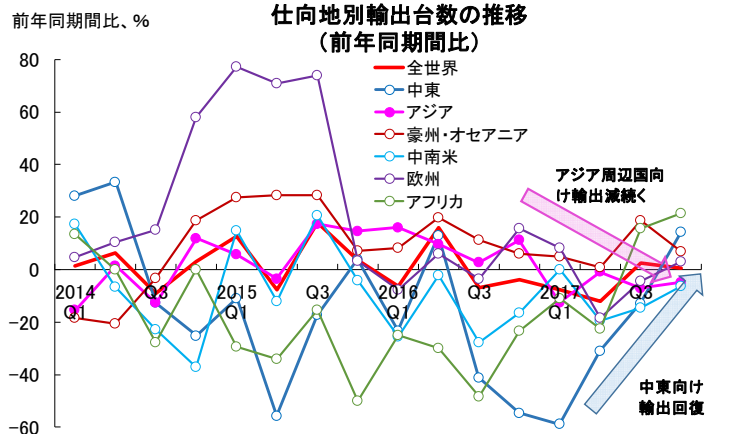
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表2 輸出台数 (SAAR) は2か月連続で増加

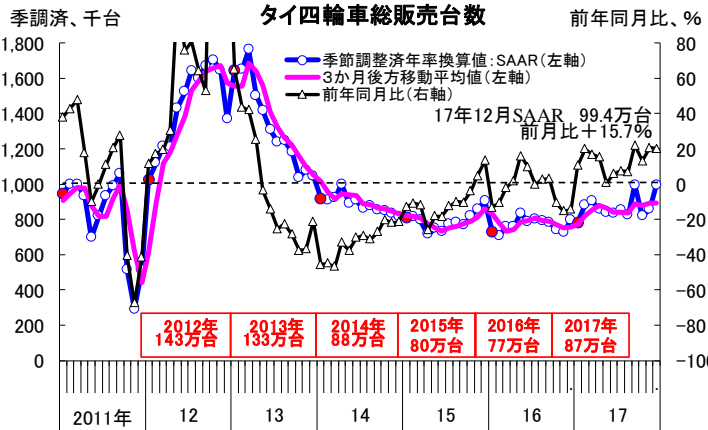


注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表3 アジア向け輸出減続くも中東向けは回復

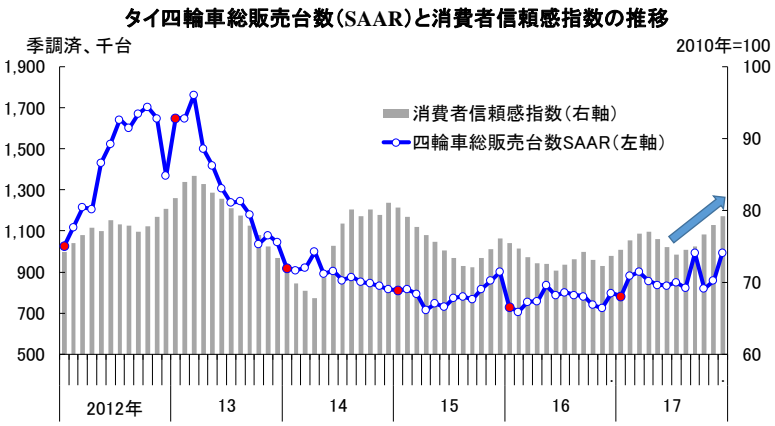


図表4 12月国内販売は大幅な増加



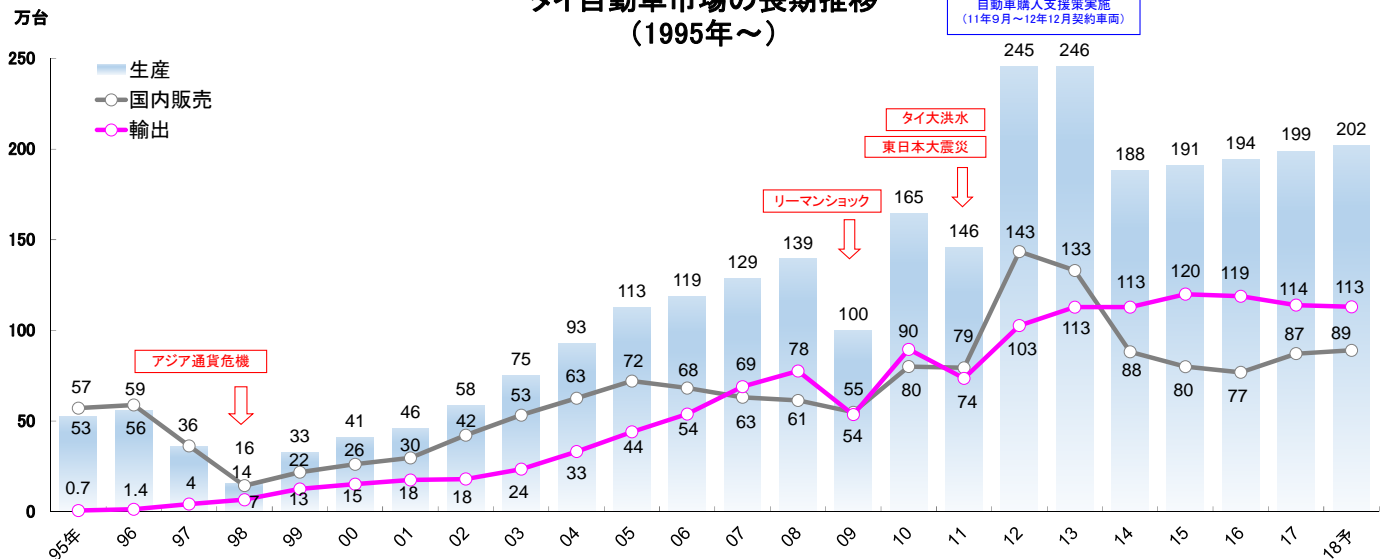
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表5 消費マインドは改善傾向が続いている



図表6 2018年は国内生産が200万台超える見通し

タイ自動車市場の長期推移 (1995年～)



注: 2018年は浜銀総合研究所の予測。
出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。